

# ひだまり

医療法人社団善仁会・アバンセ広報誌

2020  
秋号

TAKE FREE



20TH ANNIVERSARY  
 二〇祝

おかげさまで20周年  
 「すべての人にありがとう」

 医療法人社団善仁会



開設前の練馬平和台付近 (出典: 国土地理院ウェブサイトより)

平和台介護老人保健施設アバンセ  
 創立二十周年を迎えて

医療法人社団善仁会 会長 川島 英雄



2020年は本来ならば東京オリンピック・パラリンピックという世紀の祭典が晴れやかに開催される予定でしたが、コロナウイルスによって狂わされ自粛、自粛の半年間でした。そんな中で20年前を振り返ってみるに、この地に生まれ育った私の人生に、こんな素敵なおドラマが生まれた“人のご縁”に驚きを感じます。

私をはじめ大学時代からの友人で、この業界でNO.1のコンサルタント・有橋正次郎、その友人で広建設計の石田恒彦社長、そこの大番頭・大津正博専務、そして、私の友人から紹介された初代理事長兼施設長の中原一雄先生、奇しくも1998年7月7日「七夕の日」に、一同会してこのドラマはスタートしました。21世紀は福祉の時代であると言われ、2000年4月

介護保険制度の開始を迎え、併せて「少子高齢化」という社会問題をかかえる背景の中で、誇りを感じる仕事であると考えての10月1日開設の運びとなりました。

時を重ねて行く中で事業経営とは難しいものであると、この介護保険制度には3年毎に見直しがございます。お役人さまの掌(てのひら)の上で踊らされているようなもので、点数をつけたり、はがしたり、プラス改訂よりマイナス改訂の方が多かったです。又、人と人との係りが仕事となっている、マンパワーを必要とする介護の現場を考えるに、その原価の上昇も悩みの種となるところです。

開設から5年、10年、さらに現在まで、この間色々なドラマがございました。2代目理事長浜田篤先生、現在3代目理事長吉川哲夫先生は、14年と永きに渡ってお願いしております。施設長さんに関しては6人という交代があり、併せて時代の変化の中で人間味豊かな、それぞれの先生方の処世術をもって乗り切ってこられたと、有難く、感謝申し上げます。

私がこのドラマの中で強く感じたことは、介護する側、される側、そこにはいろいろな役目をもった職種の皆さんが大勢おります。人が織りなす機微、誰が主役でもなく、脇役でもなく、気がついてみると多くの職員の皆様方、多くのご利用者様とご家族の皆様、関係するそれぞれの会社の皆様、近隣をはじめ、地域の多くの皆様を支えられ、ここまで歩んでくることが出来ました。これもひとえに全ての皆様方のご指導、ご支援を賜りましたことと感謝申し上げ、心からの御礼とさせていただきます。

最後に、当法人として2017年9月に、ご縁あって南池袋の地にアバンセを開設させて頂きました。ここでも、創立時の3人が偶然ですが話をまとめ上げ、夢のような型を実現させて頂きました。これもワン・チーム・アバンセの賜物であったと考えております。

「職員の幸せを通して社会貢献を」

- この理念のもと人の役に立ち、世の中で必要とされる存在に
- この介護の仕事とはそれは思いやり、おもてなしの心である
- この心とは人間関係をスムーズにする潤滑油である

他人を生きかすことを考えて“前に進め”ようとすると、自然と自分も生きかされて来る。

“Avance”とはそんなところである。

## 平和台介護老人保健施設アバンセ 培ってきたもの、繋ぐもの。

医療法人社団善仁会 顧問 有橋 正次郎



医療法人社団善仁会ならびに平和台介護老人保健施設アバンセは、開設から20年を迎えることができました。これも皆様のご理解とご尽力に支えられた結果、と大変うれしく思います。ここに心より感謝申し上げます。

私どもは、開設より今日に至るまで 高齢者への尊厳を第一に考え、ご利用者様の安全・安心・快適な生活をお守りすることを通じて、地域社会に必要とされる存在であり続けることを目指して事業を運営してまいりました。

私は、日頃から事業は植物を育てるがごときものだと考えております。しっかりとした大地に種を撒き、丹念に育てること、やがて花が咲き、実が生るまでには多くの時間と丹念な手入れが必要だと思っております。こうした考えに基づいて、私は2009年に職務評価制度を導入いたしました。

この取り組みは、職員の出来・不出来を審査するのではなく、ご利用者様やご家族様に寄り添ってその声に耳を傾けること、日々の業務に積極的かつ協調性をもって取り組むことを求めています。昨今の介護保険サービスには、事業運営のみならずそれぞれの現場においてもご利用者様・ご家族様と接する職員にも多様なニーズにお応えできる高いスキルが求められています。これから先も介護保険サービスは、更なる多様化を求められるでしょう。

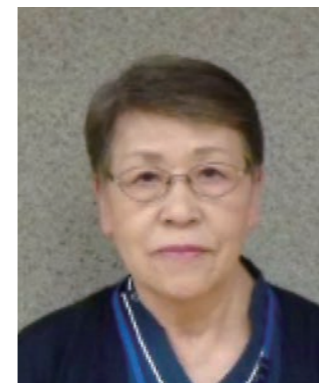
アバンセは、これから先もこうした取り組みを経て、皆さまからのもっと大きな信頼にお応えすることができるように、職員にこれまで以上にご利用者様・ご家族様に寄り添って、その一人ひとりの声に耳を傾ける姿勢を求め続けます。

最後に、善仁会は2000年に練馬区平和台に、2017年には豊島区南池袋にそれぞれ150床の老健施設アバンセを運営しております。皆様にはこれからもアバンセの介護サービスに対してご理解・ご尽力を賜り、より多くの方にご利用いただきますようお願いを申し上げて、私のあいさつとさせていただきます。



## 平和台介護老人保健施設アバンセ 現場を支えてきた力

医療法人社団善仁会 理事・統括部長 林 耐



アバンセ理念の中に掲げてきた

### 1. 安全 2. 安心 3. 快適

この3つは、まず働く職場、職員一人一人の心掛けが必須。

アバンセで働く者は、安全を基本に安心感のある場所、一番大事なものは快適な、誰もが安心して温かくやさしい雰囲気を醸し出し、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様に明るく健康的な挨拶ができること。また、ためらわず相談できる深く広い心と愛情がある職員のあふれる施設であることが重要と信じています。職員は気配り、目配り、思いやりの心を養い、急がなくていい、ここなら安心だと、入所希望先として選んでいただける施設を目指しましょう。

一番でなくていい、本物の介護提供を20年間大過なく、ときを重ねることが出来たことに、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様に心より深く感謝申し上げます。

職員全員必死に頑張っ頂き、本当にありがとうございました。



## 2階 認知症棟

介護保険制度の変化に伴い、老健の役割がより明確化されてきました。その中で私たちは、ご利用者様の安心・安全を大切に、そしてご家族様にもご安心いただけるようなフロアを目指しています。体調変化に注視しつつ、日常生活を整えていただけるよう介護・看護とも日々努めております。今後もご協力をいただきますようお願いいたします。

## 相談室

相談室は、アバンセの入口であり出口の役割を担っております。ご相談を受けている中で、「初めて介護施設を利用するので仕組みなどがよくわからない」という声が多くあります。ただ相談を受けるだけでなく、不安なことを1つでも安心に変えられるよう、これからもお手伝いさせていただきます。

## 広報・地域交流室

広報誌『アバンセひだまり便り』の発行、ボランティア受け入れ相談、地元敬老会での『健康セミナー』の開催、この3つに力を注ぎ邁進し、あっという間の9年でした。これと並行して趣味の書道を活かし、ご利用者様と楽しいひとときを過ごしたいと思います。

## 3階 一般棟

20周年という節目に携わっていただけることを嬉しく思っています。20年前といえば、介護保険制度施工の年でもあり、改定を繰り返す複雑化が進んでいます。私たちは老健施設の存在意義をいま一度考え、ご利用者様やそのご家族様、職員も含めた時代のニーズに応えられる柔軟なフロア作りを目指します。

## 事務部

お電話でのお問い合わせやご家族様がお越しになった際、まず初めにご対応させていただく部署になります。私たちは「明るく、わかりやすい」対応を心がけ、これからも、この先もアバンセでよかったと思っただけのよう、開設当初のベテランから今年4月入社職の新人まで、全員笑顔でお出迎えいたします！

## 通所リハビリテーション

平和台アバンセは無事に20周年を迎えることができました。「地域の方に開かれた施設」「困った方に寄り添うこと」をスローガンに走って参りました。加速するように世の中が変化します。変わりゆく状況の中でもスローガンがぶれることなく、21年目に向けて走り始めたいと思います。

## 栄養科

アバンセは今年で開設20周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご愛顧の賜物と感謝申し上げます。これを機に、栄養科スタッフ一同、更なるサービスの向上と、ご利用者様一人ひとりの栄養管理に努めて参りますので、これまで同様のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## リハビリテーション科

リハビリテーション科は、ご利用される皆様の人生や価値観に寄り添い、皆様が地域で安心安全に生活できることを願っています。幾重にも年を重ね、身体や考え方、環境は変わってきたと思います。その中で、できる能力を活かしながら生活できるように、一緒に楽しい未来へ進んでいきましょう。

## 薬剤部

この20年間で、国を挙げてのジェネリック医薬品関連政策や国民への浸透はめざましいものがあります。老健に薬剤師が日常的に関与している環境は、とても恵まれていると感じます。ポリファーマシー（多剤服用）問題を意識しながら薬剤師として一層研鑽し、ご利用者様に貢献出来れば幸いです。



管理栄養士  
古西 遥  
(入職3年)



介護職員  
永瀬 恵一  
(入職11年)



薬剤師  
柏木 順子  
(入職13年)



南池袋アバンセ  
和久津 はるか  
(入職1年)



事務職員  
小沼 智代  
(入職19年)



支援相談員  
加我 瑞樹  
(入職1年)



理学療法士  
長谷川 諒  
(入職2年)



看護師  
神谷 真砂子  
(入職16年)



地域交流室長  
柿沼 昌彦  
(入職9年)



南池袋アバンセ  
田邊 光一  
(入職2年)



介護職員  
堀尾 学  
(入職17年)

設立20周年を迎え  
職員から未来へ向けて

## 選手宣誓！

## 南池袋アバンセ 職員一同

開設20周年おめでとうございます！「練馬と豊島」私たちも一緒に善仁会を盛り上げます。多くの職員で協力しながら共に頑張りましょう。地元の皆様方今後とも何卒宜しくお願い申し上げます！

**川島:** 初めに介護老人保健施設(以下「老健」)のこれまでの歴史を簡単に申し上げます。  
老健施設は在宅復帰を目指すために「病院と家庭」の中間的役割を担う新しい施設として昭和の終わりに誕生しましたが、平成の時代は『在宅』を強く打ち出した施設運営はそれほど多くありませんでした。アバンセも開設からの20年、リハビリや認知症ケア、看取り介護など利用者の多様なニーズに対応することに努力し、「本人・家族が望めば、いつまでも居続けることができる」という方針でやってきました。それが前回(2018年)の制度改定において、国が本腰を入れて老健施設の本来機能である『在宅復帰』を取り戻す流れとなり、どの老健も今までのやり方だけでは、これからの令和を進むことが難しいという判断になりました。  
今回は秋山、折目、両施設長に対談形式で「令和時代の老健の在り方について」どうお考えかを伺いたいと思います。宜しくお願いいたします。

**Q: これからの老健の役割はどうあるべきとお考えですか**

**折目:** 国としては、医療と介護に必要最低限のサービスを与えるような『役割分担』がより明確になり、全て病院で看るのではなく高齢者は『在宅』で看取するような考え方に舵を切ることになりました。それが2018年の改定だと思います。特養や有料老人ホームなど数ある介護施設の中で老健は唯一『在宅復帰』の機能をもっている、それを肝に命じてやっていかなければならないと思います。  
**秋山:** やはり(国の)お金の問題が一番だと思います。病院よりも在宅で看取の方が国としての支出が少ない。その流れの中で老健は何を目標にすべきかという、自宅で介護が出来ない人が老健を望むわけですから。そういう人たちをどうサポートして支えていけるのか、我々が考えなければならぬことだと思いますね。

**川島:** 施設を上手く使いながら在宅での生活をサポートしていくということですか。  
**秋山:** そうですね。老健は色々な機能をもっていますから。どう本人や家族と向き合ってサービスを作りあげるかを我々は考えるべきです。それが日本の活力にも繋がりますし、働く人たちが十分な労働力を発揮できますしね。(家族の)意識も上がっていくと思います。  
**折目:** 昔は在宅で看取ることが普通でしたが、今の人たちは在宅で看取る経験が殆どなくて。「どうすれば良いか」を我々が『介護のプロ』として様々なサービス(通所リハ・訪問介護・訪問リハなど)を使いながら、在宅でも出来ることを経験のない家族に対して啓発(教育)していかなければならないですね。いきなり自宅で看ると言われてもね、そんなの「どうすればいいの」ってなりますから。

**Q: 病院にいた頃の「老健」「介護施設」の印象と、現在施設長として働いている中で実際異なることはありますか**

**秋山:** 病院にいた頃は経営にも携わっていたので、急性期病院から在宅に行くための受け入れ施設の一つでしかなかったです。老健がどういう施設か知識は全くなかったですね。折目先生がアバンセ施設長に就任して初めて、「どう感じるのかな」と思いました。  
**折目:** 私も『老健』と『特養』の違いが分からなかったです。病院では地域連携に所属する人たちくらいでした。その違いを理解しているのは、なのでここ(南池袋アバンセ)に来てから、こういう世界もあるのだと知りました。老健とは受け皿になっているそのものは変わらないですが、在宅に行く一つのステップとして使ってもらう役目なんだろうね。  
**川島:** やはり、一般の方と同じだったのですね。  
**折目:** (介護施設は)当時一緒になっていましたね(笑)。  
**川島:** 「老健って何ですか」って方が多いですからね。そこが我々の『課題』なんだろうね。それを伝えていかないといけない。  
**秋山:** 実際(老健は)色々な職種が揃っていてたくさん機能があるじゃないですか。地域介護の拠点として役立っているはずなんですけどね。  
**折目:** ほぼ全てのケアを備えていますからね。治療も出来ますし、看取りも出来ますし、老健は介護の総合的施設だと思うんですよ。しっかり伝えていかないといけないですね。

**Q: 平和台や南池袋の特徴・強みについてお聞かせください**

**秋山:** 平和台はやはり経営者の人柄が特に現れていると思います。「お困りですね」という。やはり家族の皆さんは困りますから、その気持ちを汲んで今まで(運営方針に)反映させてきたじゃないですか。それを(制度改定により)転換を迫られても急には中々変えることは出来ないですけども、それでも徐々に変えていかなければならない。良いサービスを提供するためには、良い経営基盤をしっかりとさせることが重要ですから。それは指導しています。伝統のある二十年間地域に密着した施設、しかもそこに住んでいる人たちが多く働いている。本当の『地域密着型』で愛される施設、これは本当に強みです。転換はあってもそのスタンスは変えてはいけません。  
**折目:** 今おっしゃったような会長の気持ちを、我々はずっと変わらず持ち続けたいですね。世のため人のため、社会のためになる仕事、この様な事業は中々出来ませんよ。これは会長のお人柄と高い志であり、私たちは敬意を払っています。そのためにも経営基盤が盤石でないとね、そうして我々は良い方向に変えていかなければならないと思います。勿論お金だけではなくですけども、でも事業継続性を考えれば非常に重要な要素ですね。  
**川島:** 両先生方にはそういった『経営マインド』があるので、我々事務長としても本当に助かります。先生(医師)というのは、そういう人ばかりではないですし(笑)。  
**折目:** 秋山先生は日大駿河台病院で副院長をやられていた頃、財政の事にもマインドを持たれてやっていたから。経営基盤を意識してやっていこうと。我々は他施設のような大規模なグループではありませんが、それ故に我々の考え方がダイレクトに伝わりやすいですね。それもまたアバンセの強みでしょうね。

**Q: 「令和」を生き抜くために我々(アバンセ)は何をしなければならぬでしょうか**

**折目:** アバンセにとって「認知症ケア」「看取り介護」「摂食嚥下障害に対するチームケア」が外せない3つのポイントかなと思っています。施設内勉強会でもスタッフに伝えていましてし力を入れています。  
**秋山:** 私は経営への意識が強いですからね(笑)。様々な方がいる中で(ベッド)回転を良くして在宅率を上げるには何を

しなければならぬのか、これを職員もよく考えなければならぬですね。在宅というのは、(ご本人が)入る前の状態より良くなった実感があれば、家族も少しは(在宅の可能性を)考えてくれると思います。そのためには我々が何をすべきなのかもう一度見つめ直す必要がある、これが一番重要でしょうね。  
**川島:** 家族の気持ちが前向きになるために、それぞれの職種が全力で考え、支えるということですね。  
**折目:** 環境を整えてあげる必要がありますね。  
**秋山:** 「どうゆう状態なのか」利用者の情報はしっかりと掴んでおかないといけません。他にも相談員も受け入れるために『垣根』を低くする必要がありますし。  
**川島:** 先生方は(垣根)低いですよ(笑)。  
**折目:** 「何とかしますよ」の姿勢で受けると、紹介する方は(垣根が低いことを)感じてくれますよ、そういう事は意識しないといけない。南池袋でも出来るだけうちでやれることをやろうと伝えています。「どうすればこの人が入所できるのか」「どうすれば在宅へ帰れるのか」を考えなければね。断る理由なんて幾らでも作れますから。  
**秋山:** アバンセ全体で職員の(取り組みへの)意識改革が必要ですね。  
**折目:** いつでも情報を発信していければ良いですね。  
**秋山:** 老健は多くの機能を持っているので、家族に安心感を与えるべきですね。その方向へ皆で向かって行かないといけないですね。  
**折目:** 介護の駆け込み寺ですね。コンサルタントのように(地域の人にも)様々な相談にのれるようにしたいですね。  
**川島:** 令和の時代を生き抜く為に、老健としての本来機能である「在宅支援」を全力で取り組みつつも、介護の駆け込み寺として「お困りですね」の精神を決して忘れず、各専門職がしっかりと利用者・家族と向き合い支え続ける。これが『我々の目指す道』ですね。今回はこのような機会にたくさんのお話をいただき、本当に有難うございました。



折目由紀彦施設長  
(南池袋アバンセ)



秋山謙次施設長  
(平和台アバンセ)

特集 「令和を駆け抜ける」

～これからのアバンセが目指す道～



**Q.1**  
『アバンセ』の意味は？

ア. スペイン語で『ぬくもり』  
イ. フランス語で『前進』  
ウ. ドイツ語で『ほのぼの』  
エ. 英語で『ささえる』

**Q.2**  
今迄のご利用者さま最高齢は？

ア. 102歳  
イ. 105歳  
ウ. 107歳  
エ. 109歳

**Q.3**  
通所スタート時の利用人数は？

ア. 1人  
イ. 10人  
ウ. 20人  
エ. 30人

**Q.6**  
リハビリ専門スタッフの人数は？

ア. 5人  
イ. 8人  
ウ. 10人  
エ. 12人

**Q.5**  
平和台アバンセの職員数は？

ア. 35人  
イ. 100人  
ウ. 135人  
エ. 200人

**Q.4**  
今迄の入所延べ人数は？

ア. 1,000人  
イ. 1,500人  
ウ. 2,000人  
エ. 3,000人

**Q.8**  
アバンセの見どころは？

ア. 100mの回廊  
イ. 枝垂れ桜のある中庭  
ウ. 大きな桜の木があり全フロアお花見できる  
エ. 上記すべて

**Q.7**  
対応可能なセラピストは？

ア. 理学療法士(PT)  
イ. 作業療法士(OT)  
ウ. 言語聴覚士(ST)  
エ. 上記すべて

**平和台アバンセのこと知ってた？**


20周年を迎えた平和台アバンセ。  
ご家族さまや地域の方には  
アバンセのことを  
「もっと×2」知ってもらいたい！と思い  
職員でも意外と知らない  
オリジナルのクイズを出題します！  
ぜひ考えてみてください。

※答え合わせは「最後のページ」へ。


**コロナ禍でも  
負けない！**




全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大の問題により、当施設でもさまざまな行事が中止、延期になり、また業務が制限されています。そのような中でも、アバンセでは前向きに創意工夫を図り、ご利用者さま・ご家族さまに対応しています。何事も継続するという事は地味ではありますが、意外と難しいものです。そこで、日々アバンセで行っている「根気力(新型コロナウイルス感染対策)」の一部をご紹介します。



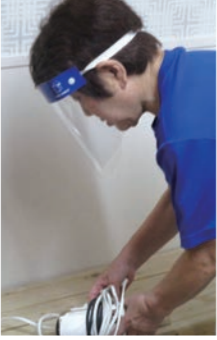
デイケア(通所)のご利用者さまは、毎朝必ず検温を実施し、マスク着用、熱や体調を確認した上でご利用していただいております。到着時には玄関前に設置のアルコール消毒液による手指消毒は必須です。




通勤時・勤務中のマスク着用、流水による手洗いやアルコール消毒液による手指消毒を必須とし、職員意識を徹底しています。また、可能な場所は常に窓を開放し、こまめな換気を実施しています。




アバンセでは職員が毎日、午前10時/午後1時/午後4時の定時に、手摺りやドアノブ、カウンターや物品など、普段から手に触れる箇所を中心に、こまめな消毒を行っています(次亜塩素酸ナトリウムを使用)。



入浴サービス時は、マスクを着用しておりますが、浴室は室温が上昇することもあり、状況によってマスクとフェイスシールドを上手く使い分けて職務にあたっています。



職員は出勤前に必ず検温し、37.5℃以上ある場合は出勤を控え、自宅待機となります。勤務中でも定期的な検温チェック等で体調の不良を感じた場合は、直ちに上司に報告し対応をしております。



デイケア(通所)ご利用者さまの送迎時は、どなたも必ずマスクを着用し、手指消毒を行うと共に、(乗車後)車内の各部の消毒も実施しています。乗車中は窓を開けるなど十分に換気も行います。

# レクリエーション 更なる向上を目指して

今までも、そしてこれからも、  
ご利用者様の笑顔を引き出す  
四季折々なレクリエーションの  
創意工夫に励んで参ります

アバンセはご利用者さまにいつも笑顔でお過ごしただけよう、様々な行事・レクリエーションを開催しています。マンネリ化しがちな施設生活の中で「楽しみ」は元気に過ごすための一番の活力になります。

ご利用者さまに「今日は楽しかった」「明日も楽しんだ」と思っていたら、季節を感じられる四季の行事と、日々趣味活動として取り組めるレクリエーションを一つずつ丁寧に提供していきたいと思っております。

また、ご利用者さまにより楽しんでいただくためには、職員も一緒に楽しむことを心がけています。行事では飾り付けなどの準備からご利用者さまにご協力していただきながら、開催当日に向けて一緒に気持ちを盛り上げています。

更に今年度より、「あそび」に特化した「レク向上委員会」を新設いたしましたので、皆さまの数多くの笑顔に出会えますよう、新たな知恵をふり絞っていききたいと思っております。



今年は各フロアごと夏を楽しみましたよ。



アバンセの桜は見事です

創設以来アバンセを見守ってくれている桜がある中、お花見・夏祭り・クリスマス会など季節ごとのイベント。会長の口癖である「職員が心から楽しんでやらないと、見ている人たちは楽しめないよ」の精神で！



ファッションショーより



通所の皆さまで育てた稲。豊作の年にはみんなで少しずつ...



地域交流会・クリスマス会や新年の初詣(アバンセおみくじ)

みなさんの健康づくりに一役かいます

## かんたんレシピ紹介

🍉 🍌 🍎 🍇 🍓 🍄 🍕 🍷 Vol.1

### 根菜とひじきのごまマヨサラダ

【栄養価(1人あたり)】  
エネルギー：95kcal / 塩分：0.4g



秋が旬のさつまいもを使った食物繊維たっぷりメニュー！  
食物繊維には腸の働きをよくしたり、  
糖の吸収を緩やかにしたりするあります (^^)

#### 材料(4人分)

- れんこんスライス水煮 …… 60g
- さつまいも …… 60g
- にんじん …… 20g
- きゅうり …… 40g
- 干しひじき …… 4g
- マヨネーズ …… 30g
- 白すりごま …… 適量
- 砂糖 …… 小さじ2
- 濃口醤油 …… 小さじ1

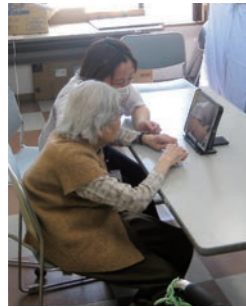
#### 作り方

- ① ひじきは戻して水気を切っておく。
- ❗ ② れんこんをいちょう切りにして茹でる。
- ③ さつまいもは皮を剥き、一口大程度の乱切りにして水にさらす。
- ④ ③を水から取り出して耐熱皿へ移す。ラップをふんわりかけて電子レンジ(600w)で5~6分加熱する。
- ❗ ⑤ にんじんは2~3mm厚さのいちょう切りにして茹でる。
- ⑥ きゅうりは2~3mm厚さの半月切りにする。
- ⑦ ボウルにマヨネーズ、白すりごま、砂糖、濃口醤油を入れて混ぜ合わせ、①~⑥までの食材を加えて和えて冷蔵庫で冷やす。

❗ 少し歯ごたえが残るくらいがおすすめ!

❗ 竹串などで刺してまだ固いようであれば追加加熱を!

## **i** オンライン面会



ご家族さまとオンライン面会中

新型コロナウイルス感染拡大により 3 月末より面会を中止していましたが、その後感染防止対策の一環として、ご家族さまのご理解とご協力のもと、5 月より当施設ではテレビ電話を利用した、ご自宅からのオンライン面会に切り替えました。

パソコン・携帯電話の操作や設定が苦手な方には直接ご来所いただき、施設のタブレットでご面会いただけます。事前の予約制で短時間と限られた中ですが、画面越しに寄り添っておられるご夫婦・ご家族さまのご心情を思うと、1 日も早く自由に面会できる日が来ることを願って止みません。今後も感染状況を見ながらとなりますが、出来る限りの対応をしていこうと思います。引き続きのご理解・ご協力をお願いいたします。

## **i** 業務効率化に向けた試み (ICT)



電子機器研修中の職員

この度善仁会では『令和 2 年度介護保健施設等における ICT※活用促進事業』申請により、施設での介護記録等の電子化を図ることとなりました。このプロジェクトは、法人全体で介護現場業務の見直しを図り、負担となっている記録等の業務効率化を進める活動で、来年度を目標に移行計画を進めております。これにより記録等業務の時間を節約し、本来目的であるご利用者さまとの時間、多職種で話し合える時間を少しでも多く作り、サービスの質を高めることが私たちの目的です。

※ICT (アイ・シー・ティー)・・・コンピューターやデータ通信に関する情報技術のことで、介護業界に関していえば「記録のデータ化」「センサー記録のデータ化」「オンラインでの診察・面談・記録等情報共有」などを意味します。

## **i** 予防接種に関して

昨シーズンのインフルエンザは、早々と 12 月下旬にピークを迎え、700 万人規模の『小流行』に終わるといった特異なシーズンとなりました。それは、新型コロナウイルス感染症に対する飛沫感染対策や手指衛生等の予防策がインフルエンザ流行の抑制につながったという見方がされています。インフルエンザに関しては、過去の罹患や毎年のワクチン接種で多くの人が免疫を有しており、一方、新型コロナウイルス感染症には、まだ殆どの方が免疫を持ち合わせていません。医療の専門家からは、今年の冬はインフルエンザよりも新型コロナウイルス感染症が優勢に流行する可能性が高いと予測されています。この冬に向け、飛沫感染対策や手指衛生等の予防策を増々励行していきましょう。

通所リハビリテーション (デイケア) や訪問リハビリテーションをご利用の方は、かかりつけ医による早めのワクチン接種をお願いいたします。

## 編集後記

2020年10月1日をもって、医療法人社団善仁会、及び平和台アバンセは20周年を迎えました。

2000年10月に時代の要請、地域の要請に応じてアバンセは誕生いたしました。その年は9月にシドニー五輪(オーストラリア)が開催され、女子マラソンの高橋尚子、女子柔道の田村亮子が悲願の金メダルに輝いた年です。あれから20年を迎える今年、東京オリンピックで賑わい明るいニュースでいっぱいの筈でした。しかし現実には、私達の経験のない新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行で大変な事態になりました。施設内での消毒を始め、マスク着用、除菌、3密回避の徹底を図り、そして通所ではアクリル板で飛沫防止対策を行い、感染させない、感染しない体制を取りました。

ご利用者さま、ご家族さま、地域の方々にはご不便をおかけしておりますが、お陰様で大過なくこの日を迎えることが出来安堵しております。

今後とも、気を引き締めて安全・安心・快適なアバンセとなりますよう職員一同団結し、更なるサービス向上に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

編集長 柿沼昌彦



現在の練馬平和台付近 (出典：国土地理院ウェブサイトより)

『平和台アバンセのこと知ってた?』クイズの答え … Q1. イ Q2. エ Q3. ア Q4. ウ Q5. ウ Q6. エ Q7. エ Q8. エ

©発行元：医療法人社団善仁会 ©発行者：川島英雄・アバンセ広報委員会 ©編集：アバンセ広報委員会 (委員長：並木芳和 / 小川登志子 / 川合夏希 / 山原亜友美 / 大野恵美子 / 渡邊豪 / 北村慧 / 兵藤晴子 / 柿沼昌彦) ※個人情報に該当する画像の掲載は法令を遵守しご本人さま・ご家族さまのご承諾をいただいております。